

# 同志社大学

## 2009年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2010年3月10日提出

所属	職名	氏名
文学部	教授	長澤 邦彦
研究題目	ドイツ超越論哲学と仏教思想	
研究成果の概要	<p>これまでのフィヒテ知識学に関する研究成果を踏まえつつ、さらに自己知の対自的構造の根本的解明を目指して、内外の研究者との交流を通じて、人間存在の根本規定としての哲学・宗教・道徳の分野における自己知の解明を目指してきた。特にフィヒテ知識学における後期思想の展開を中心に、自己知の対自性の問題解明を目指し、それを踏まえて2009年度には自己知の根本にある知の根源としての非知なるもの、さらには宗教における信仰の問題について考察をも試みた。</p> <p>2009年10月にはデュッセルドルフ大学 V.ベール教授を招き”Logische Untersuchung der Leerheit”と題する国際コロキウムを開催し、自己存在の生と知の内に存する対自的構造の解明を目指した。</p> <p>ドイツ超越論哲学における自己意識の問題を、知の知としての自己知における知の自己関係性の問題として捉え、その解明を通じて人間の自己存在の根底にある対自的構造の究明を目指した。その際にドイツ実存哲学における自己存在の問題や、仏教思想における中論や唯識思想さらに禅仏教における自己存在の問題をも視野に入れた。</p> <p>人間の自己存在の根底にある知の対自的構造の解明を通じてなされる人知の根源的解明は、生死・善悪をはじめとする人間世界の根本問題の解決に資するものであり、現代社会における深刻な諸問題の根本的解決の方向を指し示すものである。</p>	